

令和 2 年度 第 1 回茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会 会議録

議題	<p>議題</p> <p>1 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン最終評価（案）について</p> <p>2 その他</p>
日時	令和 2 年 8 月 3 1 日（月）
場所	書面会議による
出席者名	<p>委員長：野田邦弘</p> <p>副委員長：山口佳子</p> <p>委員：清水友美、大島光春、加藤幹雄、吉田大亮、海老澤宗典、 沼上純子、須藤功、太田克之、青木幸美、柴田貴行、 嶋田典子、浅井経子</p> <p>（事務局）文化生涯学習部文化生涯学習課</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料 1 次期茅ヶ崎市文化生涯学習プラン策定に対する方針について ・資料 2 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会分科会の取組について ・資料 3 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン最終評価（案） ・資料 4 茅ヶ崎市文化生涯学習に関するアンケート結果について
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	なし

(会議の概要)

1. 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン最終評価(案)について

最終評価(案)の方向性のもと、調査審議を進めることについて、

承認します	承認しません	合計
14人	0人	14人

⇒承認多数のため、最終評価(案)の方向性のもと、調査審議を進めてまいります。

意見等については次のとおりとなり、合わせて事務局の意見を記載させていただきます。

(名簿順)

発言者	内容	事務局の意見
清水委員	<p>評価案については、分科会などでの議論が盛り込まれ、見やすくまとめられていると思います。</p> <p>今後の提言に加えてほしい意見としては、現代美術、現代音楽など、新しい芸術・表現活動を積極的に取り上げ、市民が体験できる機会を作って頂きたいです。例えば、文化会館でのオーケストラ公演などで(8/30の神奈川フィルのような)、茅ヶ崎に住んでいた山田耕筰の現代的な作品や、茅ヶ崎ゆかりの現代作品(生きている作曲家)もぜひプログラムに入れてほしい。</p> <p>通常のクラシック作品のコンサートだけでは、地元への誇りも、地域発の文化の発展も望めません。</p> <p>現代音楽ならではの、演奏法や作曲を体験するワークショップなども、必ず取り入れてほしい。今は古典とされる音楽も、当時は現代音楽であり、観客を驚かせていたのですから。</p> <p>美術や他の分野も同様です。現在の芸術を取り上げなければ、文化は衰退するばかりで、発展はあり得ません。</p> <p>古典的な楽器演奏やバレエ等でさえ、有名コンクールならば、課題に必ず現代モノが入ります。今を生きているならば、現代の作品を表現する力は必須とされるのです。</p> <p>市が主催する催しでも、一定の割合で必ず現代モノを入れる事を、目標にするべきです。市民が気軽に現代モノを鑑賞・体験できる環境を作らなければ、真の意味で、文化は発展しません。</p> <p>現代的な音楽やアート、ダンスなどは、初めこそ抵抗を感じるかもしれませんが、身近な場所で、地元ゆか</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>「新しい芸術・表現活動を積極的に取り上げ、市民が体験できる機会をつくること」について、「行動目標1 機会の提供」における今後に向けた提言に追記いたします。</p>

	<p>りの人やテーマを絡ませれば、必ず興味を持ってもらえると考えます。</p> <p>市民がより文化芸術に親しみ、創造的な活動につなげるためにも必要な事だと思えます。</p>	
大島委員	<p>私は最終評価の段階から委員会に参加していますので、文化生涯学習プランの作成や中間評価の時点のことは、書面でしか確認していません。しかし、この最終評価（案）には、各年度の評価、課題などが記載されており、コンパクトにまとめられていると考えます。</p> <p>最終評価（案）には、私が議論に参加した部分について、各項目最終評価の「今後へ向けた課題と提言」の特に「提言」の部分に、議論の結果がよく反映されていると思えます。第5章の「今後への提言」も前章までに言及されたものをまとめられています。</p>	御意見ありがとうございます。
加藤委員	<p>以下についてご検討をお願いします。意見は頁毎にまとめた為、事の大小が取り混ぜとなっておりますのでご了承ください。</p> <p>①全体の構成としては各年度の意見も記載して、分かり易く良く出来ていると思えます。</p> <p>②10頁：表の左に行動目標の欄を追加する。</p> <p>③10頁：指標の達成状況 この表の概要説明を追加する。</p> <p>④10頁：施策の方向（ク）…達成出来ずではないか？評価化停止なら評価停止とは何か説明する必要あり。</p> <p>⑤11頁：表の仕切り線が漏れている。10頁以降各頁の線が漏れている</p> <p>⑥12頁：最終評価（ア）：「達成できず」であるにも係わらず、未達の説明がない。</p> <p>⑦12頁：今後へ向けた課題及び提言：下表 ・施設に関連した講座を実施し、◎施設と連携…◎は「他」が脱字？</p> <p>⑧15頁：（カ）表：24年～26年 満足度の数値が記載されない理由を追記必要。</p> <p>⑨16頁：（オ）目標未達の説明が必要</p> <p>⑩16頁：今後へ向けた課題及び提言：提言 右表 ⇒施設の⇒矢印は不要？</p> <p>⑪25頁：（ケ）目標未達の説明が必要。</p>	<p>①ご意見ありがとうございます。</p> <p>②追加いたします。</p> <p>③追加いたします。</p> <p>④「達成できず」に修正いたします。</p> <p>⑤修正いたします。</p> <p>⑥文中に、指標未達成についての説明を追記いたします。</p> <p>⑦修正いたします。</p> <p>⑧アンケートを27年度から開始した旨、説明として追記いたします。</p> <p>⑨文中に、指標未達成についての説明を追記いたします。</p> <p>⑩修正いたします。</p> <p>⑪文中に、指標未達成についての説明を追記いたします。</p> <p>⑫文中に、指標未達成についての説明を追記</p>

	<p>⑫ 25頁：(コ) 目標未達の説明が必要。</p> <p>⑬ 25頁：今後へ向けた課題及び提言：提言 右表上段 文化施設の構造化・体系化…構造化とは何か？</p> <p>⑭ 32頁：指標の達成状況 この表の概要説明を追加する。</p> <p>⑮ 32頁：重点戦略2：評価停止は未達 評価停止を追記必要</p> <p>⑯ 35頁：今後へ向けた課題及び提言：提言 右表中段 視点を持ち事 誤字：持つ事</p> <p>⑰ 39頁：ポータルサイト平成27年度運用停止の理由を追記が必要。</p> <p>⑱ 45頁：平成30年度 主な指摘事項 再下段 「行政との協業で実現できる場があるとよい。⇒行政との協業で〇〇〇を実現できる場があるとよい。何を実現するかわかりにくい。</p> <p>⑲ 46頁：第5章 今後の提言について <全体として> 前文と具体的取組項目についての記述は全体として良くまとまっていると思います。主目的である「縮充」と「変化」に対応するためにも、具体的4項目を実現するためにも、そのインフラとしての「ICT」は車の両輪と考えます。</p> <p>しかし、具体化4項目のなかに「ICT的」な記述は【4】に「オンライン整備」のみです。従って、その重要性から考えて、もう1項目【5】を追加して「ICT」についてまとめて頂きたいと思います。</p> <p>○具体化【4】または【5】項目を図で表現出来ないでしょうか？</p> <p><その他細かい点> 前文の中で気になった点 * 「持続可能」⇒「持続活性」を続ける * 「柔軟な体制」⇒「柔軟な仕組み」をつくり、体制を確保…</p>	<p>いたします。</p> <p>⑬「構造化」の記載を削除いたします。</p> <p>⑭追加いたします。</p> <p>⑮修正いたします。</p> <p>⑯修正いたします。</p> <p>⑰運用停止の理由及び28年度以降は市ホームページでの運用として引き継ぐことについて、文章を整理し修正いたします。</p> <p>⑱修正いたします。</p> <p>⑲記載について修正するとともに、ICT活用についての提言を追加いたします。</p>
吉田委員	<p>各委員の皆様の御意見をふまえて、野田委員長の「資料4」でのご意見、山口副委員長の「その他」での「資料4」のご意見でのアンケート回答の年齢偏りについてですが、例えば当方の年一回行われている『文化団体協議会・文化祭』などで広くアンケートを頂く事は可能だと思います。当会も高齢化は避けられませんが、子どもたちもいますし、その親もと考える</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>今後ともご協力をよろしくお願いいたします。</p>

	と茅ヶ崎の文化に対してストレートな意見がもらえると期待します。	
海老澤委員	<p>これだけ多くの事業等の実施に基づいた膨大なデータを分析、まとめ、評価することは時間をかけても大変な事で、さらに毎回様々な課題や目標が生まれます。その中でもやはり P8【論点 4】の評価すること自体が目的化していなかったか？という部分が気にかかりました。</p> <p>平成 24 年～26 年の評価方法からの見直しが図られた事により、各課の自己評価も含まれ、より綿密な数的データに基づいた評価と、今後へ向けた課題・提言も分野によってはかなり具体的に明確に示されていて、最終評価は大変わかりやすくまとめられていると思います。特に年度ごとの中間評価以降の評価と主な指摘事項についての記載があるので、以前の年度からどのような形で課題が出ていて、その後でどういった成果が表れているのか、またどの部分が達成できていないのか等、年度ごとの評価と指摘事項移があり、最終評価へと繋がる部分がわかりやすかったと思います。</p> <p>また、度々課題にあがっている「人材の固定化」、「世代の偏り」については、高齢化が進んでいる中で、今後も議論が必要な検討課題であろうと思います。</p> <p>さらにいまだ世界中で先の見えない猛威を振るっている新型コロナウイルスの問題については、今まで定期的な開催が可能であった事業や公演の開催が不可能となってしまっている現状を体験している今、P46 第 5 章「今後の提言」にあるように「変化し続ける」事に柔軟な体制の必要性を改めて感じました。</p>	御意見ありがとうございます。
須藤委員	良く出来ておまして、言うこともありません。	御意見ありがとうございます。
太田委員	I C Tを活用した情報発信の構築を次年度で検討して下さい。	御意見ありがとうございます。 「今後への提言」として、I C T活用についての提言を追加いたします。
山口委員	・平成 24 年 3 月作成された“茅ヶ崎生涯学習プラン”から現在までのまとめが年代ごとにまとまり評価段階における明示の推移がわかりやすいと思います。	御意見ありがとうございます。 ①図の大きさを修正い

	<p>・それぞれに指摘事項を載せていることが良いと感じています。視点別の考え方の相違があり、気づきがあることを知ることが出来ます。</p> <p>①導入の部分、文化って何だろう、生涯学習って何だろう、また基本指標、体系図は一目でわかる大きさになりますでしょうか。考え方の基本部分を伝えやすいのではと考えました。</p> <p>②プラン期間中の取り組みはもっとあったように思います。</p> <p>③P 17 教育委員会と連携した生涯学習の場での生涯学習活動を行っている市民とは例えばどのような方でしょうか。指摘事項の箇所なので何とも言えませんが分かりにくいと思いました。</p> <p>④P 16 今後に向けた課題と提言の中で講師及び受講者の…次にこの人材が活動しやすい状況を作るという言葉を入れてはいかがでしょうか。</p> <p>⑤P 29 市民に事業を任せる仕組みを作ること責任をもって事業をする人への対処が必要と考えます。</p> <p>⑥P 35 体系化の必要が薄れているとの文言がありますが、体系化は統一するということではなくシンプルにして分野を広範囲にすることが可能になる考えています。</p> <p>P 46 今後への提言 連日コロナウイルスのニュースが流れ収束の兆しが見えない不安の中前を向いて何ができるかを考え、提言していく強さが読み取れます。特に学びの充実を「縮充」と捉えた方向性をテーマとした文化生涯学習が必要という箇所に同感しました。</p>	<p>たします。</p> <p>②報告書の中でも記載のある「MaruhakuTV開始」等の取り組みを追加いたします。</p> <p>③整理し、文章の修正をいたします。</p> <p>④追加いたします。</p> <p>⑤提言に追記いたします。</p> <p>⑥整理し、文章の修正をいたします。</p>
柴田委員	各年度の意見をもとに最終評価が構成されており、最終評価作成手順としても妥当であると考えます。	御意見ありがとうございます。
嶋田委員	行動目標4 文化資源の有効活用についての実績が目標に対して毎年だいたい低いことが気になりました。	御意見ありがとうございます。 施策の方向(ケ)(コ)について、文中に、指標未達成についての説明を追記いたします。
野田委員	【資料1】 (新型コロナウイルス感染まん延によって)	御意見ありがとうございます。

	<p>①「ポストコロナ時代の新しい地域社会のイメージを文化生涯学習の視点から市民とともに考えるプログラムを検討・実施する」というのを追加したらどうでしょう。やり方含めて検討。(野田の執筆中の単著の目次を添付)</p> <p>【資料4】</p> <p>約6割の回答者が60歳以上という偏りは仕方がないとしても、年代によって回答結果がかなり異なるものと思われま。そこで年齢別のクロス集計をやる必要があると思います。本来なら年代毎にやるべきでしょうが、30歳代までのサンプル数が少ないので、40代以下と50代以上の2グループでやる方法もあるかと思ひます。このまま発表すると、若い世代は文化生涯学習プランは高齢者のための施策だと思ってしまうでしょう。別に世代間対立をあおるつもりはありませんが、若い世代のニーズを把握することは重要だと思ひます。</p>	<p>①「今後の提言」に追記いたします。</p> <p>②クロス集計をし、分析いたします。</p>
<p>浅井委員</p>	<p>8頁に記された論点にしたがって意見を述べさせていただきますが、例えば論点1についていえば市内のことがわからない上、評価するためにはそれなりの資料が必要ですので、客観的に評価することは正直、不可能です。そのことをお断りした上で、これまでプラン評価に関わって経験したことなどにに基づき問題点等を指摘させていただくことにします。したがって、的確な指摘といえるかわかりません。</p> <p>【論点1】</p> <p>①第1期のプランでは施設間のネットワーク形成(行動目標3)や情報通信技術を用いた文化資源のネットワーク形成(重点戦略2)が重要な目標、戦略として位置づけられていたが、ポータルサイトが平成27年に停止になり、プランの実行、評価ができなくなった。行政上の無駄をなくすために合理化を図ることは不可避のことであるが、代替的な機能を検討することもなかった。代替的な機能を整備するためには市内での調整等が必要だったのだろうか。</p> <p>②新たなちがさき市民大学(重点戦略1)に関わって、他の部課との調整が難しいとのこと(事務局からの声)であるが、縦割り行政には困難が付きまとうのは当たり前のことなので、課題を明確にし、それを乗</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>①重点戦略2の最終評価の文章に、いただいた視点について整理し、文章を追記します。</p> <p>②論点を明確にするため、【論点1】に、いただいた視点について整理し、文章を追記します。</p> <p>③論点を明確にするため、【論点3】に、いただいた視点について整理し、文章を追記します。</p> <p>④論点を明確にするため、【論点4】に、いただいた視点について整理し、文章を追記します。</p>

	<p>り越える工夫を議論、検討する必要があったのではないか。</p> <p>【論点2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会との機能分担については資料がないのでわからない。 ・個人、団体、学校、企業等との連携は「行動目標5、施策の方向（サ）」、重点戦略3等の指標の達成状況をもみても目標値を超えており、評価できる。 ・他市町村との連携については目標値に達していないが、容易にできることではないので一定の評価はできるのではないか。 <p>【論点3】</p> <p>③ダイナミックな事業という表現は抽象的かつ曖昧なので意味が分かりません。</p> <p>少なくとも重点戦略の1、2については腰を据えて十分な検討を行う必要があったのではないか。それが本来の推進委員会の役割であったように思う。重点戦略2について、ポータルサイトが廃止されたとしても、だからできないではなく、何ができるかを検討することが重要であったと思う。</p> <p>【論点4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を表す指標をさらに探っていく必要がある。ただし、指標がすべてではなく、手掛かりであるので、指標の示す数値が何を意味しているのか、課題は何か等の背後にある問題を探ることが重要である。 <p>④評価が目的化・形骸化し、評価した結果何を改善し、次年度に何が変わったのかが最後まで分からなかった。PDCAが回っていなかったのではないかという印象である。</p>	
--	---	--

2. その他

意見等については次のとおりとなり、合わせて事務局からの意見を記載させていただきます。

(名簿順)

発言者	内容	事務局の意見
大島委員	<p>以前の会議で浅井委員からもIT化推進の課題が出されていましたが、そのときより必要性が高まり「急務」といって良い状況になっていると考えます。さまざまなサービスや情報の（場合によってはプッシュ型での）インターネットを介した提供、こ</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>「今後への提言」として、ICT活用について及び政策推進のあり方</p>

	<p>の委員会の開催自体の web meeting 化などが必要で す。このことは文化生涯学習プランにかぎった狭い 領域の問題ではなく、市全体で取り組むべき課題で す。</p> <p>今回、評価の検討には参加していますが、各事業に 参加したわけでも近くで見ていたわけでもない上 に、評価基準が明確化されているわけでもありませ ん。提供された紙面の情報だけを読み、評価を行う ため、その信頼性・妥当性について自信を持ってない 部分があります。国や県ではなく、市という地域の 行政だからできる評価方法を取り入れたほうが良い と考えます。</p> <p>今後は当委員会の各委員が事業を視察したり、イベ ントに参加する機会を作ったりし、さらに計画時に 評価方法や基準も併せて考えることで、より実情を 反映した的確な評価を行えるよう文化生涯学習プラ ンを作成・運営するよう要望します。</p>	(評価に関すること)の 提言を追加いたします。
加藤委員	資料2 分科会について 3頁：総括の項目を新 に6として独立させてまとめたほうが良いと思いま す。	御意見ありがとうございます。 分科会の開催実績も整 理し、最終報告に記載い たします。
海老澤委員	多くの方々の意見が寄せられたアンケート結果の中 で、生涯学習が市民の生活と地域社会を豊かにする 役割があるという考えに共感を持たれている方が 85%近くいる事に関心度の高さと、生涯学習に取り 組むための講座・公演そして学習・交流の場の充実 を求めている方が多い事に「やってみたいけど…」 と思われる潜在的な層があるのではないかと感じ ました。また、なかなか難しい事なのかと思いま すが、次代を担う10代の回答者が、もう少し多く いると良かったのではないかと思います。	御意見ありがとうございます。
須藤委員	各評価、非常に良く考えられていて良かったと思 います。	御意見ありがとうございます。
山口委員	資料4 アンケート結果に回答者内訳と茅ヶ崎市 の人口分布を並列したことは考えやすいと思いま した。 ・茅ヶ崎市の人口は、40代が最も多く、アンケー トの回答は60、70代が多い、参加者が多いこと	御意見ありがとうございます。 クロス集計をし、分析い たします。

	<p>とイコールであると思いました。人としての活動が最も活発な40、50歳代の回答が時間的にも余裕のある60、70歳代の50%に近い回答があることは生涯学習への意欲を読み取れるのではと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在住歴30年以上の人の回答が50%近く茅ヶ崎の歴史や風土であるということに驚きます。茅ヶ崎市が郊外型都市であることがわかります。郊外都市から代わりつつあることが、もっと住んでいるまちを知りたいということかもしれないと考えました。 ・コミュニティーを強くしていこうという考え方に半数の共感者がいる。コロナウイルスとの共存の在り方が必要に迫られていると感じました。 	
柴田委員	<p>すでに会議で議論に出っていますが、次期プランでは、目標や指標の設定に関して、10年間の途中で社会や市民の要請・方向性が変化した場合の変更の手順を定めておくことが望まれます。また、具体的な事業名も、その事業のみを対象とするのか、その事業を含んだ分野を広く考慮するのか、10年間の初期と末期では違ってくると思います。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>「今後への提言」として、政策推進のあり方（評価に関すること）の提言を追加いたします。</p>
浅井委員	<p>聞いた話なのでその真偽を確かめる術はないが、文化生涯学習課は庁内でも極めて多忙の課とのことである（業務が多すぎる?）。もしそうであるのなら、そのような実態がプランに表れていないのではないかと思う。現実（実態）と計画の整合性を図らないと、プランは有名無実化し、評価も形骸化してしまう。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>「今後への提言」として、政策推進のあり方（評価に関すること）の提言を追加いたします。</p>

3. 議題以外の意見等

意見等については次のとおりとなり、合わせて事務局からの意見を記載させていただきます。

(名簿順)

発言者	内容	事務局の意見
清水委員	<p>現行の市役所のルール上、公式なオンラインでの会議ができないとの事ですが、これだけコロナの影響の拡大・長期化が予想される今、オンライン会議の導入は必須で最優先するべきだと思います。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>「今後への提言」として、ICT活用についての提言を追加いたしま</p>

	<p>市民団体を運営する身としては正直、リアルの活動ができず壊滅的です。市民講師としても、同様です。</p> <p>市民団体メンバーから会費を集められるような状況にはなく、かといって文化活動を止めたくはなく、オンラインでメンバー会議を行い、オンライン講座やネットライブ配信をスタートさせましたが、機材の費用など現時点では私個人の持ち出しです。</p> <p>茅ヶ崎市民活動サポートセンターが『「新型コロナウイルス」の影響と今後の市民活動に関するアンケート』を行ったので私も答えましたし、集計も確認したところ、各自で工夫し、試行錯誤しながら活動している現状が分かりましたが、今のままでは限界があり、市民活動や文化芸術の存続に危機感を覚えます。</p> <p>まずは市が率先して、コロナに左右されずに、市民が文化芸術活動や生涯学習に安心して取り組めるような対策・システムを構築すべきだと考えます。</p> <p>それほど費用を掛けなくても、必ず出来ることあるはずです。どうぞよろしく願いいたします。</p>	<p>す。</p>
<p>大島委員</p>	<p>この委員会の進め方を含め、生活全般、ほぼすべての活動を with COVID-19 という前提で行わなければならない状況になりました。</p> <p>令和4年には抗ウイルス薬ができていますを願いますが、現実にはそれでもONLINEを軸に文化的な活動や生涯学習を展開せざるを得ないことになると予想します。アンケート結果から判断すると、事業の利用者(参加者)は中高年に偏っていますが、そのボリュームゾーンへ情報を届けることが難しくなり、ますます年代による情報格差が大きくなってしまふことが、容易に想像できます。</p> <p>解決策の一つはUIを工夫することでデジタル機器を高齢者にも使いやすくすること。もう一つはマスクなどをつけなくても安全な教室(講堂)を作ることです。天井から給気し、床のメッシュで排気するような部屋を提供することができれば、これまでに近い感覚で講座に参加できるかもしれないと考えます。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>「今後への提言」として、ICT活用についての提言を追加いたします。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>(1)分科会に参加して ①野田委員長には多くを取りまとめて頂き多謝。色々と勉強になりました。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>「今後への提言」とし</p>

	<p>②行政のストーリーに乗せるのではなく、市民の意見を大切にしてくれた事に感謝。</p> <p>(2) その他 コロナにより事態が一変。東北大震災、各地で起きる水害など「明日の事は分からない」を実感しています。今後も何が起こるか分からないため、施策や重点戦略の重みづけを（推進レベルづけ）を行い、緊急時の場合の着手順位を明確にしておく（事前にスタディー）ことが必要と思っている。</p>	<p>て、政策推進のあり方（評価に関すること）の提言を追加いたします。</p>
吉田委員	<p>コロナ禍の中、舞台芸術に関わる友人も多大なる影響を受けています。</p> <p>文化・芸術分野だけでは無いと思いますが何か「チガウカタチ」を考えなくてはならないと思いました。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p>
海老澤委員	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大により人々の生活スタイルが大きく変化し、今までの当たり前が通用しない状況となってしまったと感じています。</p> <p>元々希薄になりつつある人と人との繋がりやコミュニケーションがますます取りにくい状況に加え、発表の機会減少による創作活動への意欲にも大きな影響を与えているのではないかと感じてしまいます。</p> <p>既に様々な試みがインターネットを通じて発信されておりますが、この先も様々なツールを駆使して、もっと容易な形で新たな活動に挑戦できる環境を整える事が出来ればと感じています。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p>
須藤委員	<p>各自治体の内容ももっと良くわかれば良いと思う。又コロナに負けない身体作りをしていきたいものです。まず体ですから。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p>
山口委員	<p>現在茅ヶ崎市はスポーツ振興と文化面を一括した方針でスポーツ文化財団を作っています。これから民間を包括した動きはもっと拡大しなければなりません。スポーツは結果からの割り出しをします。文化は、熟成されていくもので答えがすぐに出ることは、稀です。共通の考え方のあることも多いと思いますが、視点を考慮すると別々の審議をして、合同の審議とすることがのぞましいのではないのでしょうか。偏りはないのでしょうか。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>スポーツ振興については「茅ヶ崎市スポーツ振興基本計画」という個別プランがございます。</p> <p>両プランの連動をより意識しながら、各施策の推進に努めてまいります。</p>
	<p>今回の新型コロナが今後、ある程度収束したとしても、新しい感染症がいつ出現するかわからない。そのようなこともあり、また我が国のデジタル化が世界よりもはるかに後れを取っていることもあり、政</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>「今後への提言」として、ICT活用について</p>

<p>浅井委員</p>	<p>府も骨太の方針 2020 でデジタル・ニューディールを 取り上げている。今後は I C T はもちろんのこと、A I、I o T の活用、ビッグデータの収集と活用等が求 められると思う。</p> <p>E B P M に取り組む必要がある。また時代の変化 が著しいので、重点戦略など、必要に応じてサンドボ ックス制度を活用して実証実験を行ってはどうか。 その際には実証実験を実施すること自体が重要な のではなく、エビデンスになるデータの収集が重要で ある。</p> <p>評価の方法としては、プランの柱（例・行動目標、 施策の方向）に位置づく事業を年ごとにいくつか選 択して事業評価をし、当該柱の指標の評価とともに 総合的に当該柱の評価を行うことも考えられる。文 科省の政策評価もこのような方法で行っていた（現 在については存じ上げない）。</p> <p>清水友美委員がいわれているように、次期のプラ ンでは茅ヶ崎市の特徴や独自性を大切に、それを 生かすように工夫されるとよいと思います。</p>	<p>及び政策推進のあり方 （評価に関すること）の 提言を追加いたします。</p>
-------------	---	---

委員長署名 野田 邦弘

委員署名 海老澤 宗典